



会 社 案 内



歴史的な瞬間を刻み続けて90年。

映像技術は蓄積され、挑戦への原動力となる。

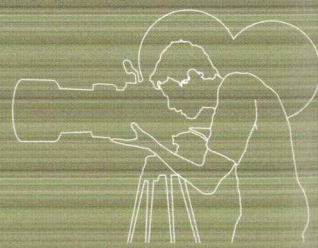
1925年(大正14年)、創業者である山口良吉によって「山口シネマ公司」として設立されて以来、山口シネマの歴史は映像によって人々に感動を届け続けてきた歩みであり、そのためにさまざまな技術を開発してきた足跡でもあります。

創業当時、記録映画の制作や農林省(当時)監督下における宣伝映画制作を行っていた山口シネマ公司に転機が訪れたのは、難しい馬の撮影に実績があることを買われ、競馬の着順判定の参考になる映像を撮るための研究開発を同省畜産部から要請されたことからでした。決勝写真撮影の始まりです。以降、レースの公正さを保つために、カメラはもちろん現像機などの周辺機器の開発を重ね、今日の高い技術力へと

到達したのです。

また、競馬ファンの拡大というもうひとつの課題にも積極的に取り組んでまいりました。現在の業務にもある、記念ビデオ&フォト撮影を皮切りに、ファンサービス用場内放送もスタートさせ、愛される競馬を目指した業務拡大を、常に行ってきたのです。

そして現在では競馬場内の枠を越え、テレビ放送やインターネットメディアでも山口シネマの映像が流れるようになり、ファン拡大の一翼を担い続けているのです。デジタル化の波が押し寄せる現代、こうした過去のさまざまなノウハウがあるからこそ、新しい技術や分野にも挑戦することができる山口シネマ。これからも感動を伝え続けてまいります。



History of YAMAGUCHI CINEMA



History Point01
山口式フォトチャートカメラ完成 **1949**
シャッターの無いカメラを日本で初めて作ったのが昭和24年。電源の無い施設が多かったこの時代、蓄音機用のゼンマイを動力として採用し、判定写真撮影を大きく変えました。このカメラの発明は、山口シネマが飛躍的に発展を遂げるスタートラインともなりました。

History Point02
パトロールフィルム正式採用 **1953**
昭和28年、中山競馬場でのパトロール業務に正式採用されました。このときまでに、カメラの開発・改良、当時監視台と呼ばれたパトロールタワーの高さをどれくらいにするかなどをはじめ、迅速さを求めて現像機の開発も行われ、より公正なレースを実現するための研究は多岐にわたりました。

History Point03
ファンサービス用場内テレビ放送実用化 **1963**
「競走馬の姿に美を感じるのは所有者ばかりではなく、休日過ごす多くのファンたちも同じだ」という想いから、競馬場内でのテレビ放送をスタートさせました。いざなぎ景気の影響もあって増え続ける競馬ファンの、馬をよりはっきり見たいという希望を叶えるためにスタートしたサービスでした。

History Point04
デジタルビューアーを正式採用 **1988**
撮影した映像を、実際のレースとほとんど同時にモニター画面で見ることができ、プリントアウトもほぼ同時という即時性を発揮するデジタルビューアー。まず競艇で認められ、競馬では判定の補助手段としての利用を考えるケースも出てきています。写真同様の画質とさらなる時間短縮を実現しています。

History Point05
写真判定カラー化 **1996**
1983年。競馬史上まれにみる混戦となった第44回オックス。5頭が一線となってゴールし白黒写真では判定しづらい状況に…。以来カラー化に取り組みネックとなっていた現像時間も短縮に成功。1996年実用化されました。

History Point06
大型中継車の導入 **2015**
中央競馬開催各場にITV用・パトロール用の大型拡幅中継車を配置、2台を1式とした映像放映運用システムを開発。これにより、スペース・機材・人員の大幅な効率化を実現すると共に、より高画質で高品質な映像をお届けしています。

審判公正関連事業

- レースビデオパトロール
- ファロントイメ計測
- カラーデジタルビューアー
- 競技判定システム

Conduction

歴史・開発力

ファンサービス関連事業

- ファンサービス用場内テレビ放送
- 車載カメラHD無線伝送装置
- 映像伝送業務大型映像業務
- 映像セキュリティシステム
- 記念ビデオ&フォト制作

わずか1000分の1秒の ドラマに全てを注ぐ。

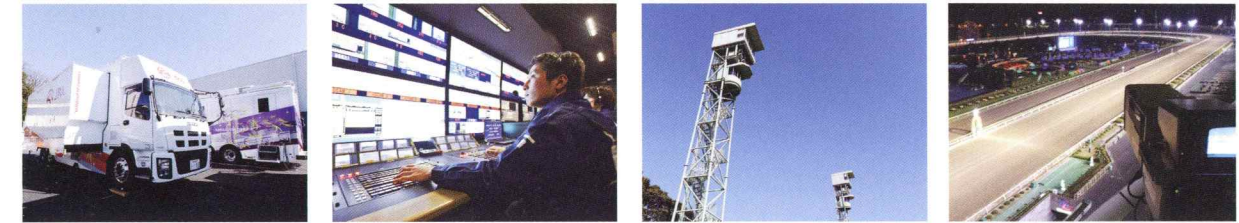
時速60km以上でゴールを駆け抜けるサラブレッドとジョッキーたち。勝敗が決まるその瞬間はわずか1000分の1秒単位の差であることも多いのです。「走る芸術品」とも呼ばれるサラブレッドのゴールの瞬間を、極めて正確に捉えることが、山口シネマに課せられた使命なのです。

いかに公平で、いかに正確に審判業務を遂行することができるかが、どのようなレースにおいても最も優先されるべきことです。そして、そのためには

ゴールの瞬間だけでなく、その途中経過を含めたレース全体をくまなく見ることが求められます。

さらに、それを実現するためのカメラをはじめとする、あらゆる設備の開発にも努力してまいりました。だからこそ、信頼される情報ソースとしての映像・写真が提供できるのです。

1000分の1秒の中には、山口シネマの全ての技術力が集約されています。



ありのままの真実を捉える。

Fairness

審判公正関連事業

公正な審判を下すための大切なリソース。

着順を正確に記録するために

■ 競技判定システム

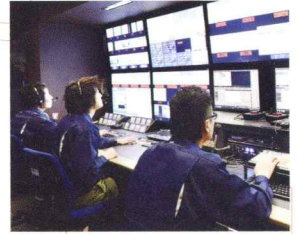
ゴール板を通過した馬のみを映し出す競技判定システムは、レースの着順を正確にかつ瞬時に判定するために、3台のカメラによって、最適な角度での撮影を確実にを行っています。撮影には先進の超高感度CCDラインセンサを搭載したカメラを採用。低照度時でも高速走査による撮影が可能で、ハレーションなどの反射光によるスミア発生が有りません。撮影直後に映像を提供する、次世代のデジタル写真判定システムです。



最後の瞬間に正しく向かうために

■ レースビデオパトロールシステム

1000分の1秒を争うレース中には、走路妨害や違反行為が起こることがあり、それを監視しているのがレースビデオパトロールです。馬群を追いつつ全頭をカメラに収め、判定員と同様の視点によって、レースの公正さを保ちます。スイッチャーとカメラマンとの綿密な情報交換により、レースの展開を見ながら、漏れの無いようにレース全体をカバーすることが重要となります。また判定が必要になりそうな映像をあらかじめピックアップすることで、より短時間での審議をサポートしています。



ボートレースに特化したシステム

■ カラーデジタルビューアー・ボートレースシステム

他の競技とは異なった判定方法を採用するボートレース。決勝ゴールの着順撮影はもちろんの事、ボート6艇のスタート撮影がライティング・出遅れ判定をする上で重要な要素になります。カラーデジタルビューアー・ボートレースシステムは、1つのレース中にスタートとゴールを確実に撮影し、直後に審判員が求める映像を選択し提供することができるボートレースに特化したシステムです。顧客のニーズに合わせた「最適なシステム」をコンセプトに掲げ開発に取り組み、ボートレースをはじめ各競技場へとそのシェアを広げています。



公式タイムとしてのプライド

■ ファロンタイム計測システム

スタート地点、残り4ファロン、残り3ファロン地点に設けられた投光器・受光器による自動計測が公式タイムとして記録されるシステムを提供しています。その設備や計測時における設定等の管理・運営では、鳥による誤動作を避けるなど、高度な判断力が伴います。また、着順表示板への表示というファンサービスの観点からも重要なシステムですが、着差を求めるためにゴールタイムが必要なためレースの公式記録として大きな責任を伴っています。



映像を作っているのではない。
感動を創っているのだ。

山口シネマの撮影する映像は、審判業務だけにとどまらず、ファンの“想い”に応える映像を撮り続けてきました。レースを楽しみにしているファンのみならず、山口シネマの映像こそが、レースそのものになるのです。だからこそ、いかにレースを楽しめるか、いかにファンに響く映像を捉えることができるかを、常に考え、提供してまいりました。レースを楽しむための環境整備にも山口シネマは貢献しています。場内の安全を守り、不正からファン

を守るためのセキュリティシステムによって、より快適で安心してレースを楽しむことができるようになったのです。さらに、リアルタイム映像だけではなく、将来にわたってレースを楽しめるように、新たなシステムの開発を行い、それとともに配信システムまでも開発してファンに感動を届けています。



時代とともに新分野に挑戦。

Challenge

技術開発

新たなメディアでのコミュニケーション。

ケーブルレスで場所を選ばない

■2.4GHz HDデジタル無線伝送装置

2006年6月に総務省の技術基準適合証明を取得したHD無線伝送装置は、2.4GHzの周波数帯を利用しているため、免許不要で誰にでも取扱いが可能なのが魅力です。

OFDM変調方式だからマルチパスにも強く、陸上競技、モータースポーツなど、各種屋外イベントでも採用されました。HDエンコーダを内蔵しているため、ハイビジョンにも対応しております。小型化・軽量化にも成功し、低消費電力での稼働を実現しておりますので、長時間にわたる撮影にも実用的な伝送装置です。



より美しく鮮明な映像を届ける

■競技場初デジタルハイビジョン放送開始

2006年10月より東京競馬場において競技場初となるデジタルハイビジョン放送が開始されました。有線テレビ放送に最も適したトランスモジュレーション方式によりITV室から競馬場内に設置された受信機に送出され、高精度で迫力のある映像をファンの皆様に提供しています。またこのハイビジョン映像ソースはターフビジョンにも提供され、その大型マルチ画面にハイビジョンの魅力を余すところなく表現しています。



常に先を見すえた技術革新

■先進の競技用システム技術開発

各種競技場で様々な業務を行うオペレーター。緊迫したレース中にしか得ることの出来ない様々な事象や体験、彼らはこれを見逃さず開発の芽へと育てます。

技術開発、それは長い年月の日々の貴重な経験から生み出されるものなのです。競技の現場で何が求められ、それにどう答えていくのか、技術開発チームは常に現場と連携し、チャレンジし革新を求め続けます。



場内の安全を守るために

■映像セキュリティシステム

場内における不正行為の防止のために、そしてトラブルを未然に防ぐ安全対策のために、場内監視カメラと運用システムを提供しています。また、場内の混雑状況や、周辺道路状況もチェックすることが可能です。ファンが場内に入り、帰途につくまでを見守る、安心システムとも言えます。数百台に及ぶカメラを一括管理でき、より合理的で、しかも効果的なセキュリティを構築しています。各所ごとに最適なカメラを選定することもできるのは、山口シネマならではのサービスです。





ファンの視点に立つ。

Fans' Fun

ファンサービス関連事業

想いを繋ぐ。

Message

ごあいさつ

レースを楽しむエッセンスを届ける

より多くの人に感動を届けるために

■ファンサービス用場内テレビ放送

迫力あるレースの実況中継はもちろん、パドック情報、オッズ、馬体重、他競馬場のレース結果など、ファンの知りたい情報を場内各所のテレビをはじめ、全国のウインズやグリーンチャンネルに配信し、放映されています。通常のレースでもパドックに2台、レース中継では4台のカメラにより、できるだけ多くのファンの方に楽しんでいただける映像を撮影できるよう配慮しています。GIともなると最大十数台にも及ぶカメラが各所に配置され、あらゆるシーンをカバーし、レースを盛り上げます。



臨場感をさらに高めるために

■大型映像業務

大型映像での放映を行うためのオペレーション業務を担当しています。2006年10月からは東京競馬場において、全長60m以上にもなる超大型ターフビジョンの放映もスタート。さらに映像の幅を広げ、ファンの期待に応えています。3画面分割による映像情報の多彩化(オッズ/VTR/ゴール判定)や一画面で迫力あるゴールシーン等のVTR再生など、スピードで動きのある映像切り替えでファンの感動をより深めてまいります。



ファンが見たい映像を捉えるために

■車載カメラ

新潟競馬場、1000mの直線コースは、固定カメラでの撮影が困難だったことから生まれたのが山口シネマの車載カメラです。2002年から稼働し、改良を加えた2台目の車載カメラは、ファンのみならず高い評価を得ており、現在ではなくはならないものになっています。すでにハイビジョン対応カメラの搭載も完了し、迫力のある、より鮮明な映像をファンにお届けすることが可能になりました。各所で使用され、ファンを楽しませています。



未来に残したい大切なメモリアル

■記念ビデオ&フォト

愛馬の勇姿をいつまでも残しておきたいというオーナーをはじめとする関係者の希望を叶えるのが、山口シネマが制作を手がける勝馬ビデオと優勝記念写真です。全てのレースにおいて優勝馬と馬主・調教師・生産者・ジョッキーの記念フォトを、専門スタッフが撮影しています。また、パドックでは全頭映像を残し、レース～ゴールまでを編集した記念ビデオを各関係者の方々に記念として販売しています。高い技術を誇るスタッフは、ゴールを駆け抜ける瞬間も写真に捉えています。



人々の信頼と期待に応え、
より価値ある映像の創出へ。

1925年に官公庁委託による映画制作会社としてスタートを切った当社は、競馬をはじめ各種レースに欠かせない映像機器の開発および映像制作に特化し、長い歴史を歩んできました。

私たちが提供する映像は競技結果を直接的に左右するだけに、決して失敗が許されないものです。戦後、競馬が人々の大きな娯楽として発展したとき、レースを公正かつ確実に判定する技術が日本にはありませんでした。そんな中、当社は当時競馬の先進国だった米国にノウハウを学び、国内における映像技術のバイオニアとして礎を築いてきました。現在でもその精神は、私たち一人ひとりに脈々と受け継がれています。

競馬の発展を支え、業界で確かな存在感を示してきたからこそ、時代のニーズを汲み取った映像機器を世に送り出してくることもできました。「カラー写真で明確な判定をしたい」という要望の高まりを受け、1996年には業界初となるカラーフィルムによる写真判定の実用化に成功。同時にカラーデジタルビューアの完成にもごぎつけ、デジタル写真判定時代の到来に向け照準をあわせました。以後、高精度化のための技術革新を重ね、現在多くの競馬場で採用されているハイビジョン対応の「CDV-X」へとつなげています。

映像の進化に終わりはなく、私たちは今後もより高いレベルを目指し続けなければなりません。どのような状況下でもより確かな判定を瞬時にできるよう技術を極めていくことが、私たちに求められる永遠のテーマであると考えます。さらには、疾走する競走馬の迫力や美しさを鮮明でリアルな映像として届け、ファンの皆様の満足を追求していくことも重要です。

また、競馬をめぐる市場環境が変わり続ける近年では、競馬場の設備運用の効率化にも尽力してきました。顧客からの要望に応えるため「CIC (Cinema Innovation Construct) プロジェクト」と銘打った構想を進め、大型中継車の導入による新たな映像放送運用システムを業界に向けて提案し、競馬場運営の刷新を後押ししました。

当社が成長を果たしていくためには、いつの時代も人々の信頼と期待に応え、社会に貢献できる企業であることが欠かせません。今後も、主催者やファンの皆様はもちろん、競技に関わるあらゆる人々に、より高品質な映像を届け、公正なレースが生み出す楽しさや感動という大きな価値を提供し続けていきます。



代表取締役社長 山口 良成



株式会社 山シネマ

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-11-2
TEL 03-5839-2721 FAX 03-3657-5174

<http://www.yamaguchi-cinema.co.jp>

会社概要

商号/株式会社山口シネマ
本社/〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-11-2
TEL.03-5839-2721
代表/代表取締役 山口良成
設立/昭和29年(1954年)
資本金/3720万円

事業内容/
競技場(競馬場・オートレース場・ボートレース場)の
着順判定写真撮影、各種有線テレビ放送業務
その他 I T V 関連業務、ビデオソフト制作

主要取引先/
日本中央競馬会
株式会社中央競馬ピーアール・センター
公営各競技場

主要取引銀行/
みずほ銀行、三井住友銀行

国内拠点

- 本社
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-11-2
TEL.03-5839-2721 FAX.03-3657-5174
- 西小岩事務所
〒133-0057 東京都江戸川区西小岩4-2-1
TEL.03-3657-5171 FAX.03-3657-5174
- 北小岩事務所
〒133-0051 東京都江戸川区北小岩5-27-6
TEL.03-3673-9466 FAX.03-3650-5586
- 関西支店
〒660-0861 兵庫県尼崎市御園町21
TEL.06-4869-3025 FAX.06-4869-3026
- 名古屋支店
〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田5-8-9
TEL.052-262-5202
- 九州支店
〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神2-5-17
TEL.092-752-0380 FAX.092-752-0384
- 岩手出張所
〒020-0024 岩手県盛岡市菜園1-3-6
TEL.019-624-0904 FAX.019-624-0980

関連会社

- 株式会社プラスミック・シーエフピー
〒104-0033 東京都中央区新川2-12-15
TEL.03-3523-9520 FAX.03-3523-9521
- 株式会社セントラルビデオ
〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田5-8-9
TEL.052-241-5843 FAX.052-261-7768

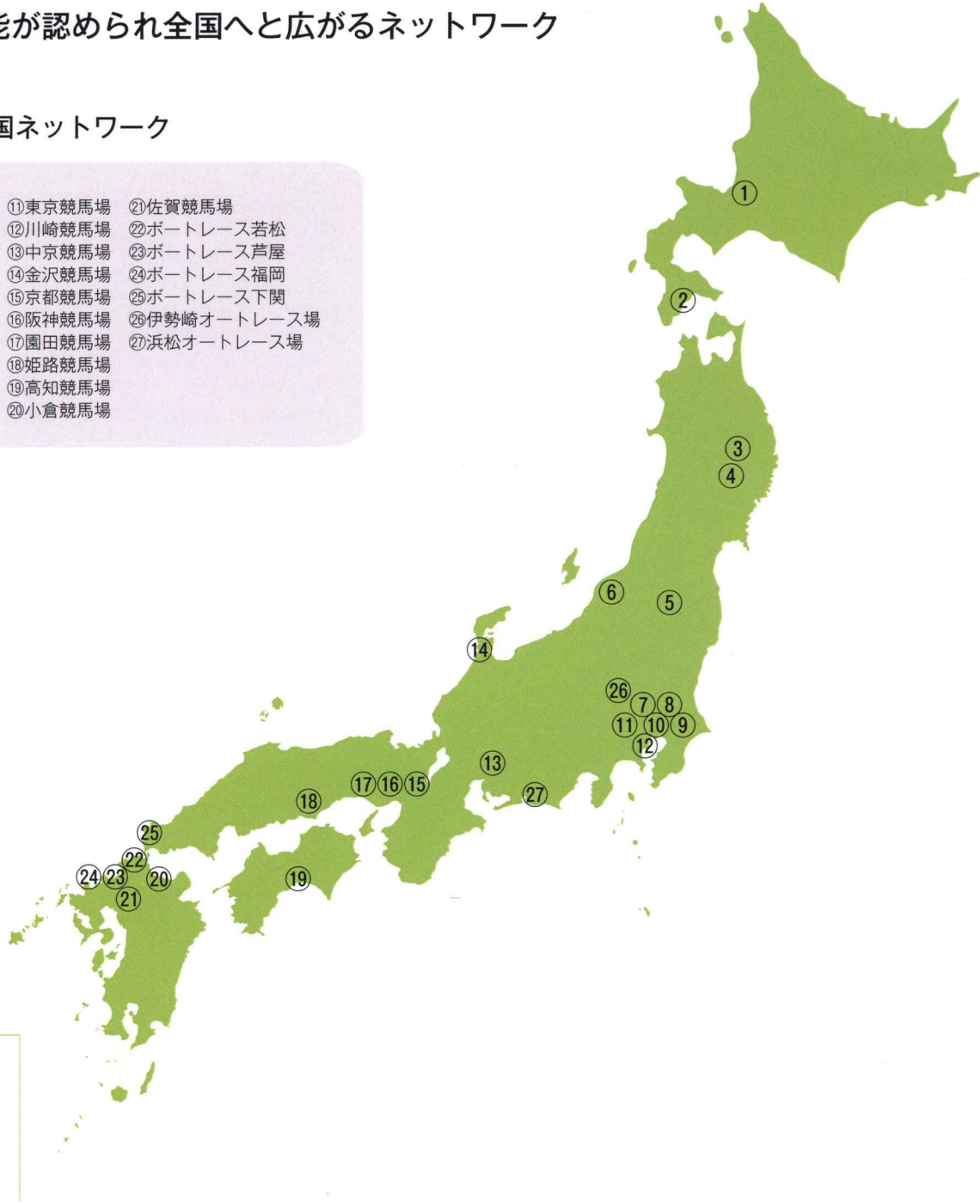
沿革

- 1925年 初代社長 山口良吉が山口シネマ公司創立
- 1932年 第1回東京優駿(日本ダービー)記録映画を制作
- 1949年 山口式フォトチャートカメラ完成
- 1953年 フォトチャートカメラの発明に対し社団法人発明協会より優秀賞受賞
中山競馬場にて競走監視業務(パトロールフィルム業務)始まる
- 1954年 株式会社山口シネマ設立
- 1963年 中山・東京両競馬場にてファンサービス用場内放送業務を開始
- 1965年 自動タイム計測装置完成
- 1969年 中央競馬各場にてパトロールビデオ業務を開始
- 1970年 判定写真用拡大装置完成
- 1986年 デジタルビューア完成
- 1990年 株式会社プラスミックに社名変更
- 1996年 中央競馬各場にてカラーの判定写真業務開始
- 2002年 車載カメラ完成
- 2006年 2.4GHz HDデジタル無線伝送装置、技術基準適合証明取得
- 2009年 株式会社プラスミックから株式会社山口シネマへ社名変更
- 2014年 CDV-X1(デジタル判定装置) 中央競馬全場で正式採用
- 2015年 1925年創業以来90周年を迎える
中央競馬 I T V ファンサービス並びにパトロールビデオ大型中継車導入

技術・性能が認められ全国へと広がるネットワーク

🔍 全国ネットワーク

- | | | |
|--------|--------|-------------|
| ①札幌競馬場 | ⑪東京競馬場 | ⑳佐賀競馬場 |
| ②函館競馬場 | ⑫川崎競馬場 | ㉑オートレース若松 |
| ③盛岡競馬場 | ⑬中京競馬場 | ㉒オートレース芦屋 |
| ④水沢競馬場 | ⑭金沢競馬場 | ㉓オートレース福岡 |
| ⑤福島競馬場 | ⑮京都競馬場 | ㉔オートレース下関 |
| ⑥新潟競馬場 | ⑯阪神競馬場 | ㉕伊勢崎オートレース場 |
| ⑦浦和競馬場 | ⑰園田競馬場 | ㉖浜松オートレース場 |
| ⑧中山競馬場 | ⑱姫路競馬場 | |
| ⑨船橋競馬場 | ⑲高知競馬場 | |
| ⑩大井競馬場 | ⑲小倉競馬場 | |



山口シネマ組織図

